



ももっち・うらっちと
一緒に、古代備前の
文化財を学ぼう!

古代備前の 文化財をたずねる



岡山県マスコット ももっち・うらっち

「二度の分国」

養老4年（720年）完成の歴史書『日本書紀』や平安時代初めの『続日本紀』に出てくる「吉備」は、皇位継承をめぐる壬申の乱（672年）の後に備前国（岡山県東部）、備中国（岡山県西部）、備後国（広島県東部）に分けられたようで、さらに和銅6年（713年）、備前国の北半が美作国として分国されました。こうして成立した備前国は、赤坂郡、磐梨郡、邑久郡、児島郡、上道郡、津高郡、御野郡、和気郡（藤原郡→藤野郡→和気郡）の8郡からなり、現在の岡山市の大部分、倉敷市児島、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町東部、美咲町の一部、兵庫県赤穂市の一部に当たります。

備前国が成立する前のこの地域の中心の一つはいまの赤磐市南西部で、全長206mで県内第3位の前方後円墳である両宮山古墳（赤磐市穂崎・和田 国指定史跡）はそのことを裏付けるのに十分な存在感があります。両宮山古墳の周囲には水をたたえた濠がめぐっていますが、現在でも水をたたえた濠が確認できる古墳は、県内ではこの古墳だけです。5世紀後半に築かれた両宮山古墳の近くには和田茶臼山古墳や朱千駄古墳などの前方後円墳が複数基あります。また、両宮山古墳の西約2.9kmにある、6世紀後半に築かれた牟佐大塚古墳（岡山市北区牟佐 国指定史跡）は、全長18mという全国有数の規模の横穴式石室（埋葬施設）を持ちます。

平城京（今の奈良県奈良市におかれた都）で中央集権体制がとられた奈良時代には、地方政治を行うための国府が各国に整備され、役所建物である国庁が建てられました。備前国府は、地名から岡山市中区国府市場周辺にあったと考えられ、一角には「国長宮」という神社が建っています。この付近に備前国府跡（3ページ参照）があります。この近くで発掘調査が行われた岡山市中区国府市場のハガ遺跡では、普通の集落の遺跡では見つからないような遺物がたくさん出土しており、国府に関連した遺跡と考えられています。

国府で政を行う国司は中央から派遣されました。そのためにも中央と地方の行き来をスムーズにする必要があったので、中央政府によって七道という道が整備されることになります。岡山県南部を通る山陽道は、九州と都を結ぶ道路として七道のなかで最も重要視されました。

両宮山古墳のすぐ西側にある備前国分寺跡（5・6ページ参照）は、聖武天皇によって国分尼寺とともに全国に建てられた寺院の跡です。国分寺は、各国でも主要古墳の近くに位置することが多く、各地の中心地を選んで建立されたことが分かります。

平安時代には、国ごとに地域内の神社を格付けするようになりました。10世紀初めにつくられた『延喜式』には、名神大社として重要視された各国の神社が書かれていて、備前国では安仁神社（岡山市東区西大寺一宮）がそれに当たります。また、一宮制度という神社の格付けでは、備前国の一宮として吉備津彦神社（岡山市北区一宮）が知られています。ちなみに、安仁神社は、中世には二宮とされました。さらに、諸国に派遣された国司が参拝しやすいように、国内の神社に祀られている神を1か所に集めた「総社」という神社が造られます。備前国総社（岡山市指定史跡）は、国府推定地にほど近い岡山市中区祇園にあり、今は備前国総社宮が建っています。

備前国には、いろいろな特産品があります。『延喜式』によると、備前国の人々が税として納めていた品には、様々な焼き物、鉄、塩、絹、糸、ごま油、筆、牛の皮、鹿の皮、あゆ、クラゲ、大豆、小豆などがありました。平安時代に納めていた焼き物は、現在の備前焼につながるものと考えられます。

本書では、飛鳥時代から平安時代の備前国にある様々な文化財をご案内しましょう。



安仁神社(上)・備前国総社宮(下)

備前国庁跡 (岡山市中区国府市場) 〈県指定史跡〉



備前国庁跡に建つ神社

旭川東側の平野^{へい や}という地名があり、国長宮^{こくちよう}という神社があります。ここに備前国府の役所建物である備前国庁^{あさひがわ}があったと考えられ、県の史跡に指定されています。しかしながら、国長宮の東側にその所在を考える意見もあります。国府市場のハガ遺跡^{せんざい}では、発掘調査により正方形の区画^{すずり}やそれに沿う建物、三彩（白・緑・黄色に彩られた焼き物）や羊をかたどった焼き物の硯^{すずり}など特別な遺物が見つかり、国庁との関わりが考えられました。ただし、この調査でも国庁跡の位置が確定できたわけではありません。備前国庁跡は、その所在の可能性を示す史跡で、これからも研究を深める必要があります。



備前国庁跡は上道郡に位置するけど、備前国府は旭川を挟んだ御野郡^{みよのぐん}にあったと書かれた本もあるんだ。



大廻小廻山城跡 (岡山市東区草ヶ部ほか) 〈国指定史跡〉



一の木戸

標高199mの大廻山と小廻山に築かれた古代山城です。山を越えた北西側には備前国分寺跡があります。

大廻山と小廻山を総延長約3.2kmの城壁(土塁)が取り巻いています。土塁は、版築という土を何度も突き固めて積み上げる工法で造成しており、裾部には一辺を数十cmに加工した割石や自然石を並べていました。谷には石垣を築き、谷水を流す水門を取り付けていました。このような場所をこの城跡では「木戸」と呼び、3か所確認されています。

発掘調査で7世紀後半から8世紀前半の土器などが見つかっており、備中国の鬼ノ城(総社市奥坂)と同時代と判明しています。ちなみに、鬼ノ城よりも大廻小廻山城跡のほうが広いです。

周辺の施設

岡山市瀬戸町郷土館

旧瀬戸町で出土した考古遺物などを展示しています。大廻小廻山城跡を散策するときに駐車できます。

開館時間 9時～16時30分

開館日 第2・4日曜日

電話 086-803-1611 (岡山市教育委員会文化財課)



備前国分寺跡 (赤磐市馬屋) 〈国指定史跡〉



復元整備された塔跡

741年(天平13年)、^{てんびょう}聖武天皇は^{しやうむてんのう}仏教の力で国中が安定することを願って全国60余国に国分寺を建立させました。備前国分寺跡は両宮山古墳の西側にあり、南側約200m付近を古代の山陽道が通っていたと推定されています。

寺域は東西約175m、南北約190mで^{つじべい}築地堀に^{こんどう}囲まれ、^{あんち}金堂(仏像を安置する建物)、^{こう}講堂(お経の講義や説教をする建物)、^{とう}塔、^{そうぼう}僧房(僧が生活する建物)、^{かいろう}回廊、^{ちゆうもん}中門、^{なんもん}南門の跡がみつかっています。金堂や講堂は^{きだん}基壇上に並べた^{そせき}礎石の上に建てられていました。平安時代中頃から後半に改修されたようですが、平安時代末には講堂が火事で焼け落ちました。また、鎌倉時代以降に講堂を建て直しますが、^{そうけん}創建の時より小さくなったようです。平安時代中頃に



奈良時代中頃



平安時代初め



平安時代中頃



鎌倉時代後半～
室町時代初め

様々な時代の瓦 写真提供: 赤磐市教育委員会



古代備前国分寺周辺(想像図)
画像提供:赤磐市教育委員会

廃絶した塔の心礎(中心柱の礎石)には、鎌倉時代後期の石造七重層塔(赤磐市指定重要文化財)が立っています。

これまでの発掘調査で、多くの遺物が見つかっています。痛みやすい瓦は、葺き替えを繰り返す必要があるため、様々な時代のものが確認されています。文字や記号が刻まれた瓦は、瓦製作の様子を今に伝えてくれます。釘などの建築用金具や壁土も出土しました。さらに、「常」と彫られた青銅製の印や三彩、中国製の白磁など遠方でつくられた器など貴重な遺物も見つかっています。



青銅製の印(上)と印影(右)
写真・画像提供:赤磐市教育委員会



周辺の施設

山陽郷土資料館

備前国分寺跡など赤磐市で出土した考古資料を展示しています。

- 開館時間** 9時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日** 月曜日、祝祭日、年末年始
- 電話** 086-955-0710



賞田廃寺跡

(岡山市中区賞田)〈国指定史跡〉



復元整備された金堂跡・東塔跡

旭川の東側で、竜ノ口山南西裾^{かんしゃめん}の緩斜面地に位置する、備前国最古の寺院跡の一つです。南西約850mには備前国庁跡があります（3ページ参照）。

発掘調査によって、寺域は一辺約108mで、金堂跡や2基の塔跡などが見つかりました。土器などが多く出土し、寺院が整備されていた様子が分かっています。創建は7世紀中頃で、はじめは小さなお堂が建てられたようです。本格的な金堂は7世紀後半に建立され、8世紀代には塔2基が建てられました。凝灰岩の切石を用いた塔の基壇は、「壇上積基壇^{だんじょうづみきだん}」という地方寺院では珍しいもので、中央との強い関わりが考えられています。現在は、建物の基壇や柱をのせていた礎石が復元整備されています。



賞田廃寺の建物配置図

塔基壇の石材は香川県さぬき市の「火山」で採掘したものであって。わざわざ瀬戸内海を越えて、石材を運んだんだね。



復元整備された西塔跡の壇上積基壇

かる うと づか こ ふん
唐 人 塚 古 墳



唐人塚古墳の石室(左)と内部の石棺(右)

賞田廃寺の西側約130mに位置する唐人塚古墳は7世紀中頃に築かれ、県内同時期の古墳としては最大の長さ8.9mの横穴式石室を埋葬施設としています。石室内には兵庫県高砂市で産出する龜山石たつやまいしで作られた石棺せつかんが残っていますが、蓋石はなくなっています。賞田廃寺の創建時期と同じくらいの時期に築かれているため、両者の強い関わりが考えられます。



幡多廃寺塔跡

(岡山市中区赤田) 〈国指定史跡〉

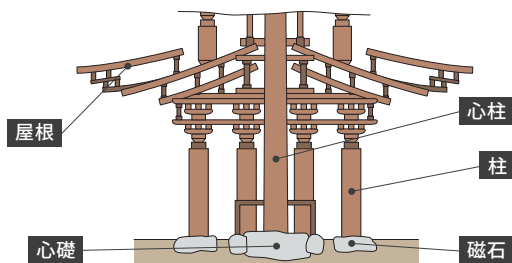


幡多廃寺塔跡の心礎

旭川の東側平野の住宅街にあります。北北西約1.3kmには備前国庁跡があります（3ページ参照）。

7世紀末頃に創建され、平安時代末までには^{すた}廃れてしまったと推測されています。現在は塔の心礎が残るだけですが、発掘調査によって寺域が東西約123m、南北約128mで、金堂や講堂と考えられる建物跡や門跡が確認されました。建物を取り巻く回廊跡と重なる位置で平安時代末の瓦窯も見つかっています。

●塔断面のイメージ図



万富東大寺瓦窯跡 (岡山市東区瀬戸町万富) 〈国指定史跡〉



遺跡の現在の様子

吉井川の西側700mにある低い丘陵の西斜面に十数基の瓦窯が並んで見つかり、大がかりに瓦を焼いていたことがわかりました。窯跡の周辺では、工房と考えられる竪穴遺構や管理棟と思われる礎石建物、瓦を用いた排水施設も確認されています。

ここでは、治承4年(1180年)に戦で焼け落ちた東大寺(奈良県奈良市)再建用の瓦を焼いており、「東大寺大仏殿」や「東大寺」の刻印がある瓦が多数見つかっています。建久4年(1193年)に備前国が税収を再建の費用とする造宮料国になったため、再建の責任者である僧の重源は、良質な粘土と燃料の木材が豊富で、製品搬出の水運(吉井川)に恵まれた万富で瓦を焼くことにしたのでしょう。



「東大寺大佛(仏)殿」と刻印された瓦
写真提供:岡山市教育委員会



寒風古窯跡群 (瀬戸内市牛窓町長浜) 〈国指定史跡〉



遺跡の現在の様子

牛窓の錦海湾を望む丘陵頂部にあります。瀬戸内市から備前市佐山地区にかけての旧邑久郡一帯に広がる、約130基の窯跡からなる邑久古窯跡群の南端に位置します。

寒風古窯跡群では須恵器（灰色の硬い焼き物）を焼いた窯跡が5基見つかっています。全長は約8～11mで、操業時期は7世紀初めから8世紀初めの約100年間です。杯や高杯（脚が付いた杯）、皿、壺のほか、硯や陶棺（焼き物の棺）、鴟尾（お寺などの屋根を飾るもの）が出土し、さらに文字が刻まれた須恵器など特殊な製品もあることから、公営の窯跡と推定されています。

10世紀初めの『延喜式』には、備前国の人々が、様々な焼き物を税として納めていたことが記されています。平城京跡（奈良県奈良市）では各地の須恵器が出土していますが、



寒風古窯跡群で見つかった須恵器
写真提供：瀬戸内市教育委員会

この中に白っぽい色の須恵器が見つかることがあります。これは邑久古窯跡群で出土する須恵器の特徴と同じで、土器の化学分析でも奈良時代には邑久郡で作られた須恵器が都に運ばれていたことが裏付けられています。

邑久古窯跡群での須恵器生産は、燃料となる木がたくさん伐採され、減少すると、それに対応して場所を変えながら続けられました。平安時代終わりには、生産地が備前市佐山地区から備前市伊部地区に変わります。伊部地区での焼き物生産開始を備前焼生産のはじまりとする考えがあり、備前焼の生産は須恵器の生産技術を引き継いだものであることから、寒風古窯跡群は備前焼の窯のご先祖にあたるといえるでしょう。



邑久古窯跡群と備前焼の窯跡群
(窯跡群の範囲はおおよその想定)



備前陶器窯跡 伊部南大窯跡(国指定史跡)
長さ約54m。備前焼を焼いた江戸時代の窯跡。

周辺の施設

寒風陶芸会館

寒風古窯跡群で見つかった古代須恵器や寒風陶芸の里で創作活動にはげむ現代作家の作品を展示しています。

開館時間 9時～17時

休館日 月曜日、祝祭日の翌日、年末年始
(月曜日が祝祭日の場合と祝祭日の翌日が土・日曜日の場合は開館)

電話 0869-34-5680



熊山遺跡 (赤磐市奥吉原) 〈国指定史跡〉



熊山遺跡

吉井川の東側にある標高約508mの熊山の山頂付近に位置します。

方形の基壇の上に築かれた三段の石積施設^{いしづみしせつ}で、高さは3.5m、下段の幅は7.7mです。石積の最上段の中央には石室状の施設があります。昭和12年(1937年)に発掘され、その時に高さ1.6mの筒形の焼き物と三彩壺^{さんさいて}、経巻^{きょうまき}らしきものが出土しています。石積施設は奈良時代に造られた仏教関係の施設と考えられています。

熊山遺跡と同じような仏教関係施設には、奈良県奈良市頭塔^{ずとう}(国指定史跡)や大阪府堺市土塔^{どとう}(国指定史跡)があります。いずれも奈良時代に築かれたものですが、平地部に築かれている点で熊山遺跡と異なります。



筒形の焼き物

写真提供:天理大学附属天理参考館

熊山山塊には同様の石積がたくさん見つっています。山頂付近の熊山遺跡石積施設が最も大きく残りも良好ですが、近い規模の石積や二段で規模が小さいものも確認でき、また積んだ石材が崩落したようなものもあります。これらの石積はいずれも熊山遺跡と同じように仏教関係の施設と考えられますが、造られた時期はよく分かっていません。



熊山山塊の石積
みなみさんがい (上: 南山崖 3号遺跡、下: 経盛山 1号遺跡)

写真提供: 赤磐市教育委員会

熊山遺跡石積施設や頭塔、土塔をお釈迦さまの遺骨やその代わりのものを納めた塔と考える意見があります。総社市の備中国分寺五重塔も同じ塔だけど、ずいぶん違っているね。



所在マップ



発行日 平成28年9月5日

発行 岡山県教育委員会

編集 岡山県教育庁文化財課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 電話086-226-7601(直通)

協力 赤磐市教育委員会、岡山市教育委員会、瀬戸内市教育委員会、天理大学附属天理参考館、和気町教育委員会、岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立博物館、岡山県立瀬戸高等学校、岡山市立芳泉中学校、岡山市立三門小学校